
Ziを持つ者

BIW

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Z i を持つ者

【Nコード】

N 4 0 5 2 M

【作者名】

B I W

【あらすじ】

ゾイドが好きな少年、来宮戦斗。彼は死んでしまい、神の気まぐれにより、転生してもらう。・・・どんな世界かも知らずに

Episode 0 転生

黒い空間

はじめまして、みなさん。俺の名は来宮^{きのみや}戦斗^{いくと}。ゾイドやコードギアスのようなロボット系が好きな高校1年生だ。なんか変わった名前だが気にしないでくれるとありがたい。さて、俺が今どういう状況を説明しなければならぬ。実は俺は・・・

死んでしまったのだ。はいそこ、テンプレとかいうな！俺だってどうしてこんな状況になったのか分からないんだよ！

そして、前には先ほどから、この空間に座ってゾイドのプラモデルを組んでいるじいさんがいる。

「なあ、じいさん。あんた、誰？」

「ん？まあちょっと待っておれ。あと少しで区切りがつくから。」

「オイ！それ俺が買ったプラモだろーが！何勝手に作ってんだ、殴るぞ！」

「良いではないか、お主はもう死んでるんじゃないかのう。」

「おい、それってやっぱりあれのことか？」

「そうじゃ、お主が線路に落ちた子供を助けたが、逆にお主が死んでしまったんじゃ。」

「そうかい。それじゃあ、あの子は大丈夫なんだな。」

「ああ、あの子のはの。本当は死なんかったんじゃよ。」

「は？」

「電車がやってくるギリギリで線路に倒れて、電車の下スレスレで当たらんかったんじゃよ。」

「つつことは、何か？俺がやったことは無駄だったと？」

「そうじゃ。」

「まじかよ？」

「しかし、お主も良く助けようとしたの？正直普通なら間に合わん

かったじやろつに。」

「うつせえよ。」

「ほっほっほ、優しい子なんじゃのう。」

「だから、うつせえ！それで、ここはどこなんだ。」

「ここは現世とあの世の境目じゃ。ここで、お主を転生させる。」

「なんとまあ、唐突だな、オイ。」

「ほっほっほ、お主の優しさに免じてじゃよ。ちなみにお主の行く世界と、力はワシが勝手に決めといた。」

「はあ！？なんだそりゃ！何勝手に決めてんだよ！」

「良いではないか、わしだってこついの決めたいし。」

「そついう問題！？」

「では、行つて来ると良い。」

そう言つと、足元の感覚が無くなった。足元に穴が開いたと分かったのは、その穴から落ちてからだつた。

「ウアアアアア!？」

そうして、俺は転生した。その世界がどんなものなのかも知らずに。

Episode 1 Zi/IS

その後、実際に転生し、赤ん坊から始まった、俺の第二の人生。名字、名前共に変わらずに転生し、親の顔も変わっていないが、1つ上に姉が1人と、1つ下に妹がいるのと、両親の仕事が機械関係と
言うことである。

そして、数年の月日が流れ、両親は離婚してしまった。さらに、俺は父親に引き取られたが、姉と妹は母親が引き取ることとなった。そして、父と2人暮らしをして、数年。父は死んでしまった。どうやら、仕事の帰りに通り魔に刺されたようだった。葬式が行われたが、父は親戚がおらず、父の両親ももう他界してしまっているらしかった。

それでも、父の仕事の同僚である人に保護者となってもらうこととなった。名を紅月と言うらしい。少し、その名に少し疑問を抱きながらも、外国人ばいですけど、日本人なんですか？と疑問をぶつけてみると、どうやら婿養子として嫁いできたらしく、実際はアメリカ人であるらしい。妻は日本人であるが。そして、俺と同年代の娘がいるらしいので、会わせたいらしいとのことで、紅月家に行くとそこには、子供でこそあるが、間違いなく、コードギアスの紅月カレンがいた。ここはコードギアスの世界なのか？と考えながらも、紅月家に世話になる。そして、その時間インストロムス聞いた話であるが、どうやら俺と紅月のおじさんの職業は、IS関係の仕事をしていたらしい。

これを聞いて、流石におかしいと考えた俺は、色々と可能な限りのことを調べた。その結果、今のところ分かったのが、どうやら、ここはISとコードギアスとマブラブの世界ということだ。実際に、

征夷大將軍とかがあった。

そうして、中学生となると、俺は紅月家を離れ、自分が住んでいた家に戻った。この家は、紅月のおじさんが管理してくれていた。カレンは反対していたが、色々条件付きで許してもらえた。そして、俺は久しぶりに実家にかえると、そこには、手紙と、なにかの機械が置かれていた。

「やつほー、元気にやつとるかの？お主も薄々気づいてはおるじやろうが、その世界はいくつかの漫画やゲームが融合している世界なのじゃよ。」

そして、そこに置いてある道具。それは、特殊なISでの、ゾイドの力を使えるんじや。お主、絶対今の発言で引いたじやろ。まあ、やれば分かる。そのペンダントを手にとると、ISが起動する。

あとは、自分で頑張ってみると良い。 by 神様」

あとは？そう疑問に思っていると、突然何かが背中に直撃した。そして、顔を床に激突させた。一体何事かた顔を上げると、そこにはブレードライガーがいた。

はっ！いかんいかん、落ち着け、俺。いくらなんでも、ゾイドがいるわけがない。大体、大きさが違うじゃないか。きつと何かの間違い。

G a o o o ! !

・・・分かったよ、現実逃避は止めるから、そのブレードを納めてくれ。

「しかし、どういうことだ。だいたい、何でゾイドが、しかも小さいし。」

《それは、私が説明しましょう》

「だ、誰だ!？」

《ここです、貴方が持つISです。》

「こ、こいつが？」

《はい、初めまして。私の名は「ヘリック」と申します。》

ISが喋っていた。しかも、声はフィーネじゃねーか！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4052m/>

Ziを持つ者

2011年4月28日12時37分発行